

グリーン水素へのエネルギー転換プロジェクト「H₂-YES」における
P2Gシステムの試運転開始について

2021年6月7日

山 梨 県
東 レ 株 式 会 社
東京電力ホールディングス株式会社
株 式 会 社 東 光 高 岳

山梨県（県庁：山梨県甲府市、知事：長崎幸太郎^{ながさきこうたろう}）、東レ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：日覺昭廣^{ひつかくあきひろ}、以下「東レ」という。）、東京電力ホールディングス株式会社（本社：東京都千代田区、代表執行役社長：小早川智明^{こばやかわともあき}、以下「東京電力HD」という。）及び株式会社東光高岳（本社：東京都江東区、代表取締役社長：武部俊郎^{たけべとしろう}、以下「東光高岳」という。）は、甲府市米倉山^{こめくらやま}の電力貯蔵技術研究サイトにおいて、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託事業として、共同で技術開発を進めてきた、再生可能エネルギーの電力でグリーン水素を製造し、化石燃料の利用を低減させることを目的としたプロジェクト「H₂-YES」（エイチ・ツー・イエス）におけるP2G（パワー・ツー・ガス）システムの試運転を、本日、開始しました。

P2Gシステムは、水の電気分解から水素を製造する技術であり、カーボンニュートラル社会の実現に向け、再生可能エネルギーの導入拡大と温室効果ガスの削減において、世界的に期待されています。特に、H₂-YESでは、メガソーラーの変動する電力と、大型の固体高分子型水電解装置により水道水から水素を作り出し、水素吸蔵合金システムに水素を貯蔵するなど、安全・安心にグリーン水素を利用できるシステムを構築しました。将来の再生可能エネルギーの大量導入に併せ、様々な地域や場所への当該システムの展開を目指して参ります。

今回の試運転は本年秋頃までを予定しており、水素の製造及び貯蔵等に係る試験調整を行いつつ、山梨県内の工場やスーパーマーケットへ輸送し利用する一貫したシステムにより、社会実証試験を全国に先駆けて開始します。今後は、段階的に水素の製造量を増加させ、年内を目途に、当初の計画である「1時間あたり300Nm³、年間45万Nm³」の水素による本格的な実証試験へと移行する計画です。

山梨県、東レ、東京電力HD及び東光高岳は、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラル社会の実現に向け、P2Gシステムの更なる高効率化・大容量化と、国内外への普及を図るとともに、エネルギー需要家の化石燃料の利用をグリーン水素に大きく転換させるため、引き続き協力して取り組んで参ります。

<本発表内容に関するお問い合わせ先>

山梨県	企業局電気課新エネルギーシステム推進室	TEL : 055-234-5268 (直通)
東レ	広報室	TEL : 03-3245-5179 (直通)
東京電力HD	広報室報道グループ	TEL : 03-6373-1111 (代表)
東光高岳	経営企画部	TEL : 03-6371-5002 (直通)